

経営のヒント61 改善の為のヒント

言葉とは、行動を起こすためのものです！

組織において言葉とは、行動を起こすためのもの。
その言葉は自分の組織で具体的な内容を、明確に定義すべきです。

「お湯」とい言葉聞いたときに、温度は何度だと思えますか？
40度前後、90度前後だと思う方がそれぞれいるでしょうね。
どちらでもかまいませんが、あなたが旅館で働いていたら問題です。
「お風呂のお湯」の設定ができません。

カタカナ英語の多い企業は業績が悪い！
カタカナ英語を使う人は理屈屋さん。
そして観念論ばかりで具体的に行動しない！責任回避がお上手な人が多い！
本質は見えてない！抽象論でごまかす人が多いのですね。
こんな人は下手に頭がいいからコマリモンです。
「言い訳の天才！」と私は思っています。

ちなみに私もある研修の時に言われて「ガーン」とショックを受けました。
そう言ってくれた人はピーターパンの横手社長の息子さんですから「縁の不思議さ」を感じます。
そうなんですね。私自身が「言い訳の天才」だったのです。
今でも、そのクセがありますから、いつも注意しております。

言葉は何故、大切なのか？
それは、判断する基準だからとっております。
「判断」とは割り切るとい意味です。
仕事で大事なことは実行することで、判断がなくては実行はできません。
判断するとは、割り切れないことがあっても、割り切ることが上司の役目です！
決して、部下に判断を任せては、駄目です。
例えば、ある赤字の事業があるとすると、その事業を今後どうするのか？
撤退か？継続か？そして何時まで？誰が責任をどう取るのか？
撤退しても継続してもどちらも赤字が残る。しかし、ここは割り切るしかないのです。

駄目上司は、もうひとつの選択肢を選びます！
「君の判断に任せる」です。
もしくは「頑張れ」「もう少し」様子をみよう」
そうなんです！
「判断しない！」という判断なんですね。

経営のヒント

判断するとは、割り切ること」・・・具体的に明確に指示しよう！
判断できない上司は、責任逃れの張本人。本質は自分かわいさから